

From JPMA

製薬産業の貢献サイクルを好循環に回し続ける

日本の製薬産業は、社会に対して3つの貢献が期待されていると認識しています。

革新的な新薬の創出によって、健康で安心な社会への貢献はもちろんのこと、その革新的な新薬を創出するための、先端的な研究開発活動により、特に医学・薬学分野の科学技術レベルの発展および専門人材の育成への貢献が期待されています。そして、その研究開発活動を維持・活性化するために確保した収益により、経済・社会情勢に左右されない安定した担税力や、多くの専門領域人材の雇用の確保を生むことを通じ、経済成長へ貢献しているという一面を有しています。

製薬産業が貢献サイクルを好循環に回すことで、日本社会を支えることが期待されていると認識しており、これからもこのサイクルを回し続けるために努力してまいります。 (1月30日 会長会見より)



日本製薬工業協会
会長 手代木 功

日本製薬工業協会(製薬協)

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者中心の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。